

収支計算書

(2010年4月1日～2011年3月31日)

(単位:千円)


科目	2009年度	2010年度		2011年度		
	実績	計画	実績	対計画達成率	計画	対前年度成長率
[1]コミュニティファクトリー経営	3,410	4,250	5,558	131%	8,291	149%
[2]サポーター・寄付事業	55,420	61,695	61,284	99%	65,415	107%
会費	34,152	38,000	36,767	97%	42,915	117%
寄付金	15,390	18,645	19,201	103%	15,400	80%
助成金・補助金等	2,000	1,400	2,650	189%	1,500	57%
その他(講演会・書籍販売等)	3,878	3,650	2,666	73%	5,600	210%
[3]IT事業	47,915	46,735	55,873	120%	25,660	46%
[4]スタディツアー事業	1,634	1,080	2,026	188%	1,800	89%
[5]その他(為替差益・雑収入等)	675	-	439	-	-	-
当期収入合計	109,054	113,760	125,180	110%	101,166	81%

支出	海外活動費	[1]コミュニティファクトリー経営	15,969	16,865	15,545	92%	20,661	133%
		[2]孤児院支援事業	1,226	3,498	2,712	78%	4,036	149%
		[3]警察訓練支援事業	1,315	3,818	3,638	95%	3,745	103%
		[4]カンボジア事務局	8,381	6,522	6,398	98%	5,063	79%
	国内活動費	[5]サポーター・寄付事業	19,325	16,906	16,808	99%	25,110	149%
		[6]IT事業	39,889	32,399	29,199	90%	19,474	67%
		[7]スタディツアー事業	1,340	1,035	882	85%	1,400	159%
		[8]日本事務局	23,856	27,468	29,200	106%	22,500	77%
	その他	[9]その他(為替差損・雑損失等)	1,421	-	964	-	-	-
		[10]租税公課/法人税等	2,286	2,000	2,447	122%	1,000	41%
当期支出合計	115,008	110,511	107,793	98%	102,989	96%		

収支	当期収支差額	-5,954	3,249	17,387	535%	-1,823	-10%
前期繰越収支差額		37,620	31,666	31,666	100%	49,053	155%
次期繰越収支差額		31,666	34,915	49,053	140%	47,230	96%

収支計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人かものはプロジェクトの収支状況および財政状態を正しく示していると認める。

宇野雅幸



貸借対照表

(2011年3月31日時点)

(単位:千円)

科目	金額
現金	1,039
預金	28,800
流動資産	
売掛金	20,384
商品	220
その他	853
流動資産合計	51,296
固定資産	
建物	299
差入保証金	4,108
固定資産合計	4,407
資産合計	55,703

科目	金額
負債	
流動負債	
未払金	5,238
預り金	1,411
流動負債合計	6,649
純資産	
資本金	500
繰越利益剰余金	48,554
純資産合計	49,054
負債・純資産合計	55,703

財務に関する分析

2010年度報告

●「収入」は1億2,518万円と2009年度比115%の伸び、計画比110%の達成となった。全事業において前年度比で順調に成長させることができた。とくに、IT事業が前年度比120%伸びたことが大きい。2009年度からの景気低迷の影響よりやや回復し、受注が一時的に好調だったことによる。コミュニティファクトリー経営は前年度比163%、計画比131%と黒字化に向けて大健闘であった。

●「支出」は概ね予算どおりとなった。円高の影響により、カンボジアでの費用は抑えられている。しかし、実際には、電気代の値上がり、必要機材の追加購入などの支出も発生した。日本事務局に関しては、期中に全体の財務状況も鑑みた上で、広報物を追加で制作したため、予算をやや超過した。

●貸借対照表の「売掛金」が多いのは、IT事業の繁忙期が例年2月3月となるためである。

●2010年9月にカンボジア人スタッフによる現金3,304.68米ドル(28万円相当)の盗難事件が発覚。後日、当該スタッフと日本人管理者の処分を決定した。また、再発防止策として、現金管理体制を強化した。被害額の返金についても本人とその家族と契約を結んだ。

2011年度計画

●「収入」が1億116万円(前年度比81%)、「支出」が1億298万円(前年度比96%)と全体的に縮小傾向にある。これは、IT事業の縮小が影響を与えている。IT事業は2010年度は粗利益額が大きくてももの、HTMLコーディング分野における事業環境は年々悪化していること等から縮小を決定した。この間、成長性の高いサポーター事業や新規財源の開発を急ぐ。

●コミュニティファクトリー経営は2010年度は好調で555万円の売上であった。2011年度は829万円(9万米ドル弱)、2012年度で約1,120万円(12万米ドル)を目指している。

●IT事業の縮小、東日本大震災の影響により若干の赤字になるが、オフィス移転等による固定費の縮小、2010年度収支の活用により資金繰り上は問題はない。